



5月に定時総会 NPO法人化検討経過を報告

向こう1年間の防災事業(行動)計画を決める平成22年度の定時総会は、5月15日(土)午後2時から中央区赤坂の読売新聞西部本社1階のよみうりプラザで開かれます。

21年度の事業報告や収支決算及び監査報告、22年度の事業計画案、予算案の審議、それに役員改選が行われます。
席上、特に、検討が進められているあんあんリーダー会のNPO法人化移行問題についての報告もあります。

リーダー会のNPO法人化 会員の理解と賛同を得た時点で

幹事会は昨年9月にNPO法人化プロジェクトチームを立ち上げ、リーダー会の同法人化について検討してきました。その結果、任意団体のままでいるよりもNPO法人になる方が利点が多いという意見にまとまりました。ただ、NPO化を進める前に会員の理解を深め、多くの賛同が得られた時点で法人申請手続きを行いたいと考えています。
NPO法人になれば、会の社会的信用が高まります。任意団体のままだと、例えば会の名義で銀行口座を開設することも出来ません(現在は、個人名義の口座で会費を管理しています)。防災に関する講座を自治体から依頼されてクロスロード等を実施しても、会として契約を結ばないため謝礼はいったん個人名で受け取った後、会の収入にしています。
NPO化を理由に会費を増やすことはしません。法人住民税など(計7万円)がかかるようになりますが、いまの予算で賄える見込みです。会の活動内容も変わりません。年間行事のうち、協力できるものについてはこれまで通り参加してください。
法人化で変わるのは、あんあん塾の卒業生でなくても自由に入会できるようになることです。会員になるための条件を制限するわけにはいかない仕組みになっています。卒業生以外の人が会員になった時には、あんあん塾の受講を勧めることにします。詳しくは、5月15日に予定されている総会で説明いたします。

博多あんあんリーダー会NPO法人化プロジェクト委員長
小森 勝輝 代表幹事・防災士

助け合いのマンションに 「救急・救命施設」の認定証 応急手当の有資格者が35名も



救マーク

自主防災会を組織し、助け合いのマンションを目指す天神ロイヤルガーデン(108世帯、約270人)福岡市中央区今泉2に市消防局から「救急・救命施設」の認定証が贈られました。応急手当の出来る有資格者が大勢揃って、「救命の駆け込み寺」に相応しい施設としてお墨付が与えられたこととなります。マンションが、この種の認定を受けたのは市内で2件目、中央区を管轄する中央消防署管内では初めてのケース。
同マンションの住民で応急手当の普通救命講習修了以上の資格を持つている人は、確認だけでも35人。このうち31人が昨年10月から毎月2回開かれてきた「応急手当教室」の修了者です。1階の会議室で夜7時から10時までの3時間講習に挑んできた人たちが、夫婦や親子、姉妹などが一緒に学び、なかには医師もいます。
講師役は、救命処置の指導が出来る応急手当普及員(応急手当市民サポーターにも認定)の阿比留 哲・防災士。「命の危険は巨大地震などの大災害時だけでなく、常に家庭の周辺に潜んでいる」との認識から全住民に呼びかけ、10月からの開講に踏み切りました。



認定証の授与式

両防災士の応援を求めてのいだこともあります。教室は管理組合理事会のコミュニティ担当との共催としましたが、所定の講習を終えた「先輩格」が次々に助手役を買って出てくれるなど、助け合いの雰囲気の中で進んでいきました。講習の内容は、人工呼吸と胸骨圧迫を中心とする心肺蘇生法の仕方やAED(自動体外式除細動器)の操作方法、それに止血、骨折の対処法など。この合間に座学のひとつとして震災現場の様相や家具の転倒防止、応急手当の模範演技などが記録された映像も映写し、防災知識の蓄積にも努めました。
受講者は夜の3時間講習に耐えぬいて1人の落伍者もなく結局、31人が市消防局から普通救命講習修了証を受けました。このほかにも確認だけで実は4人の有資格者がいることが分かり、計35人が「常駐」する救命のマンションが誕生したことになります。コカ・コーラウエスト(株)などの支援でAEDも常備することが出来ました。
認定証と救マークの授与式はマンションの玄関前で行われました。消防局側からは中央消防署の葛城 恵署長、安武 章予防課長、末安 実予防係長ら、マンション側からは管理組合の林 啓治理事長をはじめ応急手当教室を指導した阿比留 哲防災担当特任理事、
藤島 榮子コミュニティ担当理事、新たに資格を取得した多くの教室出身住民ら、それに防災士(応急手当普及員)仲間やAEDの常備に支援してくれたコカ・コーラウエスト、フクダ 電子西部北販売(株)からも駆けつけ「偉業」を称えました。

住民の反応は想像以上で、多い時には一度に女性を中心に100人を超えるケースもありました。そんな時は1人では十分に指導が出来かねるため、応急手当普及員の資格を持つあんあんリーダー会中央支部の中山 巖、南 隆洋

早速、救マークを玄関脇に掲げましたが、葛城署長は「これほど多くの方々がかかるマンションにおられるということは大変心強く、有り難い。近隣で万一のことがあった時は手を差し延べてください」と話していました。

福岡大学市民カレッジにファシリテーターで参加

福岡大学市民カレッジ「あなたならどうする?災害から命と財産を守る法」の講座の一部である「防災啓発ゲーム(クロスロード)」(講師 福岡大学重松教授)が行われ、ファシリテーターとして、他支部の協力も得つつ城南支部の会員が中心となって参加しました。
参加者はファシリテーターを含めて25名で、5班に分かれて行いました。開始当初は硬い雰囲気もありましたが、ゲームを続けるにつれて次第に和やかなムードとなり、あちこちで談笑する声が聞こえるようになりました。参加者の皆さんは防災意識の高い方々が多く、文字通りゲーム感覚で防災を楽しく学ぶことができたと思います。
クロスロードを通じ、防災に関する困難な意思決定状況を素材にすることによって、意思決定に必要な情報、前提条件について理解を深めることができたのではないのでしょうか。
(城南支部長・別府 寿男防災士)

「防災オレンジ隊」堂々の行進 リーダー会も消防出初め式に参加

平成22年の福岡市消防出初め式が中央区のヤフードームで行われましたが、毎年参加してきた博多あんりーダー会では、今年も市消防局職員や各地域の消防団員、それに民間団体の関係者約500人に伍して堂々の分列行進を披露しました。

参加したリーダー会員は41人。午前9時までにヤフードームに集合、控え室で私服をオレンジ色のジャンパーに着替えて「防災帽」を着用し、グラウンドへ。

輪番制で指揮者に指名された東支部の松嶋 慧一・防災士の号令でまずはリハーサルです。4列縦隊でグラウンドを一周し、足並みや歩く速さなどを調整。本番では女子防災士を先頭の1列目に配してスタートしましたが、見事な行進ぶりです。壇上に立つ吉田 宏市長らの前では「頭(かしら)右」の号令に合わせて一斉に頭を向けて通過します。リーダー会員の中には、市消防局の肝いりで発足間もない応急手当市民サポーターのグループに加わった人もいました。

リーダー会の行進に初めて参加した防災士(5期生)の一人は「会員同士の連帯感を強めていく上でよい経験になった」と話していました。



出初め式で力強く行進する
あんりーダー会の防災士グループ
(読売新聞西部本社提供)

東支部の5人をはじめ、各支部に入会した5期生も、さっそく支部活動に勤しんでいます。出初め式にも積極的に参加、力強い足取りを見せていました。

* * *

ひっぱりだこ 河上一座

“防災紙芝居”

南区では、“河上一座の防災紙芝居”がひっぱりだこである。「津波だ！ 稲村の火を消すな」で、最近でも東花畑・三宅・塩原・玉川の各公民館で、子供から大人までの見物者でおおモチモチであ〜る！

(注、時には、飴をしゃぶりながら)

これは、南エリア支部の河上勝幸さん、大塚鞆治さん、堀田純子さんらが手作りで作ったもので、木製の移動用舞台・講師風の衣装・わらじ・大豆の波の音の音響効果等、とても素人が作ったとは思えない。又、最近5期生の、池田瑞穂さんも加わって陣容を拡大した！

物語は、江戸時代の末に、紀州広村(和歌山県広川町)を大津波が襲った際、庄屋が刈り取った稲に火をつけて、村人たちを避難させ命を救い、その後、村人とともに4年がかりで堤防を築いたという実話。その後約100年後の昭和21年の南海大地震では、この堤防が住民たちを津波から守った。

南区以外でも、日程さえ合えばどこにでも出掛けて行くよ〜！
気軽に声を掛けて！ さあ、さあ〜 出前紙芝居だよ〜ん！！

(注)飴が入用の場合は実費で対処。



河上一座演じる防災紙芝居



飴を舐めながら見入る観客

<編集後記> 3月1日付発行の10号を以って、今期広報部(砥上,竹尾,本田,阿比留)の役目を終わらせて頂きます。曲がりなりにも任期をまっとう出来たことは会員皆様のご協力の賜物と感謝しております。

年度4回の紙面製作は、それぞれ楽しいものがありました。どんなトップ候補が、どこの支部から送られて来るのか、わくわくした思いで待ったものです。

しかし、紙面は「大物」だけで出来るものではありません。僅か数行の記事であっても紙面の構成上欠かせず、大物にはないそれなりの重要な役割を担っております。そうは言ってもボリュームのある記事をものしよと身構えたくなるものです。

結果的に「小物」には顔をそむけ、ソデになってしまうようなことになりかねません。大物は2〜3本あれば事足りるもので、広報部はソデにするような記事を常に歓迎してきました。駄弁を並べ立てご寛恕ください。(阿比留)

3月 盛り沢山な防災イベント

6日はよみうりセミナー 20日はリーダー会が出演

今年も防災を訴えるシーズンがやって来ました。この1カ月間、命をキーワードに様々な関係団体が得意の分野を通じて市民に防災意識の普及を図る一方で、災害への備えを呼びかけます。

3月6日(土)には午後1時から「よみうり防災どんたく広場」が中央区赤坂の読売新聞西部本社1階のよみうりプラザで開かれます。都市部に大きな比率で存在するマンションの対策は避けて通れないのが現実。そこでマンション防災に軸足を置き、今回は「マンションから助け合いのまちへ」をテーマにシンポジウムが行われます。

まず、県西方沖地震で半壊した中央区の大型マンションを、1年がかりで再建・復興に漕ぎ着けた事例について住民代表から報告があります。再建・復興作業の過程で育ったコミュニティが、その後の自主防災会設立の支えになり、助け合いのマンションと呼ばれるまでに到った経緯について詳(つまびら)かにされます。

実例の報告に続いて「救マーク施設」認定の第1号マンションのリーダー、救命の実験のある防災士、それに福岡マンション管理組合連合会、福岡市など行政関係者らによるパネル・デスカッションがあり「助け合う地域づくり」の道を探ります。

会場には、防災活動に取り組む防災士や地域住民の記事、写真などとともにも簡易トイレ、救急用品など様々な防災グッズも展示されます。

20日(土)には防災どんたく実行委員会や大名校区自治協議会、博多あんりーダー会などの主催による「みんなで防災」が午前10時から催されます。会場になる中央区の大名小学校校庭と体育館では、17項目に及ぶ多彩な行事が予定され、そのうちあんりーダー会の防災士グループが手がけるのは、消火器の放水操作訓練やロープ活用・結び方、心肺蘇生法・AED模擬訓練など。市民に呼びかけ詳しく指導します。日ごろの地域活動で人気の高い「防災紙芝居」も防災士によって上演されます。

このほか、福岡市消防局のポンプ車などによるデモンストレーションや救出・救援機材の展示、航空自衛隊(春日基地)による非常食の炊き出し実演、消防音楽隊の演奏会も。

前日の19日(金)には大名校区の防災訓練があり、学校行事として学童も参加します。

【大名小学校グラウンド】:雨天時は屋外展示は中止(豚汁は除く)

- ①福岡市消防局;ポンプ車や災害時の救援機材のデモンストレーションや展示、消防服の試着など
- ②航空自衛隊(炊き出し(豚汁 300食)、パネル展示)
- ③福岡RB(空き缶炊飯、火起こしなど)
- ④給水車訓練
- ⑤消防音楽隊(命のコンサート)
- ⑥リサイクルエコバザー(一部チャリティー)
- ⑦水消火器訓練
- ⑧ロープワーク
- ⑨福岡県警(白バイ展示)

※ゆるキャラ大集合(はれるん、ファイ太くん、フクちゃん)

【大名小学校体育館】

- ⑩防災紙芝居(20分×3回);稲むらの火という津波を防いだ事実にもとづいた話を紙芝居で紹介(水飴有)
- ⑪心肺蘇生法・AED体験;もしものとき、あなたは家族をそして友人を救えますか?
- ⑫災害トイレ;災害時でも生理現象は待ってくれません。とっても重要なトイレについて、うんと学びましょう!
- ⑬防災寸劇(20分);女性消防団による楽しい防災寸劇です
- ⑭NTT災害伝言ダイヤル;災害時あなたは家族に友人にどうやって安否を伝えますか?
- ⑮福岡市耐震推進協議会;住宅の耐震に関する展示や相談
- ⑯福岡管区气象台;地震計や震度計の展示、防災に関するパネル展示
- ⑰防災グッズ販売



みんなで防災!

博多あんりーダー会